



長坂 実子

### 移住定住促進の魅力化のため3世代ファミリーの移住をすすめてはどうか

**答** 島暮らしの情報発信を強化し、移住相談者に提案する



**問** 近年、移住が活発化しています。移住が活発化しているが、今後移住定住ポータルサイトやメディアを活用し、島暮らしの情報発信を強化し、興味を持っていただく方々へのサポート体制をしっかりと取り組み、議員提案の3世代家族の近居や同居を、移住相談者へ提案します。

**答** 本市は、転入者より転出者の方が多い状況が10年以上続いている。人口流出抑制のため子育て支援や仕事の場づくりも必要不可欠だが、本市への愛着や誇りを育むための本市の新たな魅力PR、魅力づくりが必要だと思ふ。都市部と比較し、本市は広々とした住環境を実現しやすく、恵まれた気候や自然が魅力の子育て環境のほか、都市部に近く医療福祉環境に恵まれ、特に在宅医療介護サービスが充実し、家での看取りまでできるなど魅力がある。本市での3世代家族の近居や同居の魅力としてPRし、本市出身者が結婚・子育てをきっかけに戻ってくる後押しや、3世代家族の移住をすすめてはどうか。

**問** 本市の文化的な魅力を市内外の皆さまに発信するためには、ご提案いただいた郷土出身の児童文学作家、山下明生先生の作品はすばらしいコンテンツになると考えます。定住や縁づくりを進めるきっかけとなり得るといふ認識のもと、今後、文化の振興による魅力づくりに取り組んでいきます。



山下明生先生の作品

**問** 歴史的な文化財や史跡、祭りや盆踊りなど個性豊かな文化があるが、本市は文化的な魅力のアピールが少ない。本市への愛着や誇りを育て、定住や縁づくりを進めるため、文化的な魅力のPRが必要である。本市出身の著名な児童文学作家、山下明生（はるお）さんの作品は多くの人に親しまれ、作品も本市のイメージに合致する。作品を活かした新たな魅力づくりをしてはどうか。

**問** 定住や縁づくりのための文化的な魅力づくりは



平本 美幸

### 江田島市の災害発生時の危機管理体制について

**答** 市民の生命、身体および財産を災害から守るため適切に対応する



**問** 災害発生後の対応として、地域の最前線で地域社会の安全・安心を守る地元建設業者との協力関係はできているのか。

**答** 大雨や風向き等により内容は聞こえづらくは想定しており、さまざまな手段により確実に伝達できるように努めています（防災行政無線・市ホームページ・緊急速報メール・SNS・アラートを活用した放送等）。

**問** 防災行政無線による避難情報発信が聞こえづらいため、避難が遅れる可能性があるが、その対策は。

**答** 防災施設やインフラ整備の強化、防災啓発活動、避難誘導体制の整備を行い、自助・共助・公助の防災協働社会の実現を目指し、災害時には被害の軽減や迅速かつ円滑な応急対策を実施し、被災後は早期復旧をはかるため、生活再建支援や災害に強いインフラの再構築に取り組めます。

**問** 災害前の対応と被災時および被災後の対応は。

**答** 日常的な管理をしている県道および市道は建設業者に路線委託を行い、また、大規模災害発生時における事前登録をしており、迅速かつ円滑な協力体制の整備を行っています。

**問** 大規模災害が発生した場合の対応は。

**答** 被害を最小限にとどめるため災害応急対策業務を最優先します。

**問** 市外在住者の職員数は。

**答** 345人のうち68人です。

**問** 勤務時間外に災害が発生し市外在住者が登庁できない場合の市の体制は。

**答** 各自が初動マニュアルに基づき配備体制をとります。参集人数に応じて、災害応急対応業務に当たります。

**問** 市民の安全・安心の確保のため、災害に強いまちづくり、災害に負けない市の体制づくりを最優先し、災害への備えをしなければならぬ。



筧本 語

### 障がい者への支援および施設の状況の改善について

**答** 障がい者の方が地域で安心して暮らせることを第一として、施設の充実を含め、障がい者施策を進める



**問** 施設の充実に向けた、本市の具体的な取り組みは。

**答** 障がい者の方が地域で安心して暮らせることを第一として、施設の充実を含め、障がい者施策を進める。生活支援が必要な障がいをお持ちの方が、その障がいの特性や生活の実態に応じた障害福祉サービスを確実に利用され、地域で生活ができる支援体制をはかっていきます。

**問** 生活支援が必要な障がい者への具体的な支援は。また、国の基本的な方針として、新規での設置は難しい状況です。しかしながら、地域で暮らすことが困難な重度障がい者の方にとって、入所施設は必要なものではないかと懸念しています。その受け皿として、より身近な場所で生活が可能な施設「グループホーム」があります。

**問** 現在、本市には重度の障がい者の方が入所する「障害者支援施設」はありません。

**答** このグループホームの中には、夜間だけでなく日中も支援が可能で、中重度の障がい者の方も利用できるものもあり、現在、本市に新たな施設設置を進めている事業者が複数あります。また、障害者支援施設についても、その役割は大きいと感じています。仮に整備を検討される事業者がいましたら、全面的に支援を行うなど、適切に対応してまいります。関係機関からのご意見等をお聴きし、障害者施策につなげるために設置している「江田島市地域自立支援協議会」やニーズ調査などを踏まえて、次期計画に盛り込むとともに、施設の充実に支援をしていきます。



平川 博之

### 公共施設および避難所施設の利用促進について

**答** 施設利用者のご理解をいただき、多目的トイレのない施設へサニタリーボックスを設置する



**問** 病気や高齢により尿漏れパッドや紙おむつを使用する人が、安心して外出や避難できるように、男性用トイレの個室にサニタリーボックスを設置する取り組みが全国的に進んでいるが、本市の設置に向けた取り組み状況を伺う。

**答** 本市の公共施設は、市民センターや交流プラザ、小中学校などさまざまな施設が全部で189施設あります。このうち多目的トイレを設置している施設が64施設です。病気や高齢などの理由で尿取りパッドや紙おむつを使用している男性が、外出先でこれらの汚物を処分できないということから公共施設の男性用トイレにもサニタリーボックスを設置する動きが各地で広がっています。しかし、本市では、多目的トイレの一部を除き、男性用トイレにサニタリーボックスの設置はしていない状況です。今後、高齢者福祉計画や都市計画マスタープランなどに基き、施設利用者の方々にサニタリーボックス設置の趣旨をご理解いただきながら、多目的トイレのない施設への設置について検討します。

**問** 児童クラブが難しい場合は、福祉保健部で実施している「江田島市ファミリーサポートセンター事業」をPRし、子育て世代のニーズに添えてもらいたいと考えています。

**問** 児童支援事業について保護者の就業形態によっては、早朝からの児童クラブの開所も利用者の利便性を高めると思うが、伺う。

